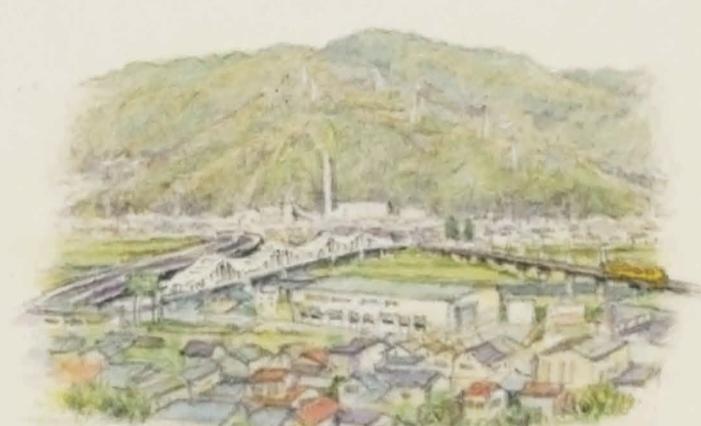


# 歴史の散歩道

いっぺんおいでえ  
広島安佐



太田川橋(3本の橋)



① 警鐘台の跡



③ 大禹謨  
(だいゆば、太田川改修記念碑)



⑨ 多宝塔

權現山



④ 八木梅林公園



⑨ 緑井毘沙門天

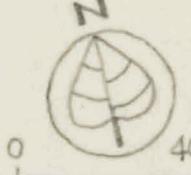
至 沼田

毘沙門台駅

安川 山陽自動車道

大町駅

アストラムライン



400M

至三次

可部駅

下左東線

① チヤップリンの秘書の  
高野さん寄贈の警鐘台の跡



② 八木用水  
(上八木)

国道54号線

上八木駅

県道1木緑井線

高瀬大橋  
高瀬公園

⑤ 歴史的な建物(洋館)



歴史的な建物

⑤

温井八幡神社

安佐大橋

古川

七軒茶屋駅

緑井駅

広島IC

川内の  
広島菜畑

福島大和守の墓

⑦ 福島大和守の墓

⑥ 温井八幡の  
乳下リイチョウ



広島菜の収穫

至 広島

## 1.警鐘台跡

昭和7年、喜劇俳優チャップリンの付き人で八木出身の高野虎市という人がアメリカから帰京した折、生家に立ち寄りその際寄贈したのがこの警鐘台で地区防災の役割を担っていました。

平成3年の台風19号で罹災し、今は基礎部分だけが残っています。

## 2.八木用水

明和5年(1768年)桑原卯之助によって作られた全長16km余の農業用水路。

八木用水が作られる前、佐東町、安古市町、祇園町は農耕用水に恵まれず、少しの日照りで水がなくなるなど、米を作るのに困っており、当時の広島藩も様々な策を試みましたがうまくいきませんでした。そこで農民の苦労を何とかできないかと考えた桑原卯之助が土地の高い上流から水を取り入れるようにすれば水が勢いよく用水路に流れると考え、工事期間わずか25日で完成させたといわれています。

## 3.大禹謨(だいゆう)の記念碑(高瀬公園内)

高瀬堰の完成を記念し、当時の佐東町が昭和47年(1972年)5月にこの記念碑を建てました。

碑文は中国古代(紀元前2070年頃)、治水の神といわれた夏朝の帝、禹(名は文命)の一字をもじる「大禹謨」と記名しました。

大禹謨とは“偉大な禹王の謀(はかりごと)”という意味です。

## 4.八木梅林と公園

八木梅林は『天長5年(828年)弘法大師が安芸の国福王寺を建立し途中、八木市土居の茶屋で休憩された折、米左衛門という茶屋の老翁が、お茶受けに進上した梅干を賞味され、八木比原の地は梅育成の好適地と教えられ、その節弘法大師の召し上がった梅の核(たね)が奇蹟的に芽を吹き、それが原木になって、梅林開設となった。』と言えられています。

その八木梅林の名を残そうと、古川区画整備事業で一区画を「八木梅林公園」として造成、平成7年に完成し現在は地域住民の憩いの場として親しまれています。

また3月の第一日曜日はここで「梅林春こい祭」が開催されています。

## 5.歴史的な洋風建築物

### 6.乳下がり銀杏(いちょう)の木

川内の温井八幡神社境内にあり、樹高24m。鍾乳石が垂れ下がるような形をした乳柱を多数下げた奇形な形をしているためこういう名が付きました。

昭和54年広島市の天然記念物に指定されました。

## 7.福島大和守の墓(伝承)

福島大和守の墓と伝えられている石塔で大和守を名乗るどの人物のものかは不明ですが、何基かの五輪塔の残欠と考えられています。

一節によると、「川の内警固衆」と呼ばれた水軍の将で歴代当主がこの名を名乗りました。福島氏は元武田氏の家臣でしたが、後に毛利氏に付き、弘治元年(1555年)の厳島の合戦では水軍を率いて参加しています。この付近を本拠地として勢力をもっていたらしく、江戸時代の文献「芸藩通志」には中筋の才の木神社の北側一帯に福島屋敷跡と記されており、この付近に屋敷があったものと考えられています。

## 8.広島安佐商工会(佐東支所)

安佐南区の佐東町商工会、安佐北区の安佐町商工会、可部町商工会が合併して、平成19年4月に設立した経済団体です。そのうち佐東支所は旧佐東町商工会区域を管轄しています。

管内で事業を営む方の相談相手として、経営指導員が配置されています。

## 9.緑井毘沙門天

JR可部線の緑井駅から、毘沙門天参道に至る商店街「毘沙門通り商店街」を抜けて坂道を登って行くと、毘沙門天、正確には「真言宗權現山毘沙門堂」に至ります。

現在の毘沙門天堂は1065年頃、現在地に修業僧教尊が行基菩薩の作といわれる毘沙門尊像を安置したのが始まりとされています。商売繁盛の神様としても知られ、毎年旧暦の初寅の日とその前日に「緑井毘沙門天祭」が開催されています。この初寅祭の時だけ御本尊が開帳されます。

### 太田川橋

広島市内から県北部を通過するために重要な橋。八木と可部を結んでいます。

以前の往来は旧太田川橋1本でしたが、現在は広島方面への通行は旧太田川橋を利用し、可部・三次方面への通行は新太田川橋を利用します。

旧太田川橋の右側には、八木から可部に向って眺めると、JR可部線の鉄橋が見え、良いロケーションとなっています。

### 高瀬堰

太田川の水をせきとめて下流地域を洪水から守ると共に、上水道・工業・農業への水を確保しています。また太田川の両岸を結ぶ長さ273mの橋の役割も果たしています。

### 広島菜

日本三大菜漬のひとつとして知られる広島菜漬。

佐東町史によると、明治の中頃川内村温井の農夫木原才次氏が京都から持ち帰った株を、在来の京菜と交配させた新種が広島菜の原点とされています。

この京菜について、江戸時代、藩主福島正則の参勤交代の折、お供の者が京都本願寺から株を持ち帰り、それが広島で広く栽培されたものだということでこちらを広島菜の始まりとする資料も残っています。

川内地区の畠は11月～12月の最盛期には一面広島菜の畠に変貌し、壯観な光景が見られます。